

第 49 話〈四人衆〉の要約と参考資料

第話〈四人衆〉の要約

亜ヒ酸鉍山開山に重要な役割を果たした四人衆がいました。ヒ鉍の採掘者、鉍山の地主、亜ヒ酸製造を経験していた鉍山師、土呂久出身の鉍山師。この中の 2 人の鉍山師は、亜ヒ酸焼きを始めると、土呂久を去っていき、あとを継いで鉍山を運営したのは川田平三郎さんでした。

第 49 話〈四人衆〉の参考資料

49-1 竹内令さく氏について（42-3 と同じ内容です）

高千穂町史（P590）より

其の後どう廻ったか判明しないが、明治 27 年山口県阿武郡篠生村の竹内答作が四国の別子銅山から来て、農商務省の特許をとって 10 月 22 日から採掘にかかった。其の後大正 7 年 8 月 22 日宮崎県採掘権を新しく登録して事業を続けたが、この頃から副産物である需要が多く、大正 9 年頃には 120 ポンド入 1 箱 25 円から 30 円して土呂久鉍山はアヒサン鉍山に変身した。

養子の竹内勲の話（1972 年 2 月 17 日聴取）

私は京都出身で、竹内の養子です。今年 69 歳。私が 4 つのときに土呂久に行くまでは母と一緒に京都にいました。竹内は山口県の萩（阿武郡は現在萩市に含まれている）の出身で、住友の生野銀山の技師だったのですが、内藤家に鉍山部があって、そのの笠原（鷲太郎）という技師長と仲良しだったようで、森田三弥以来の銀山に来たんでしょう。細々と坑口あたりの 1 万 2 千坪くらいの鉍業権を持ち続けたわけです。明治 32, 33 年ごろからでしょう。

私は小学校をでてすぐ 15、16 歳のときから 22, 23 歳まで大阪に行き、神戸の貿易商が振りだしで修行をつんで、昭和 4 年に岩戸に帰ってきました。私の住宅は岩戸神社の前でした。土呂久まで歩いて行ったので、1 泊するか、日帰りでしたね。私は鉍脈を測定することがあったんです。どっちに掘っていいかわからんときに、坑内測量といって、親父から習って相談に行くくらいでした。

そのころは川田（平三郎）さんが亜ヒ酸焼きをやっていて、盛んになったのが昭和 5, 6 年でした。川田は竹内から採掘権を借りて、1 トン鉍石を掘るといくらかという計算で払っていました。竹内は税金を払いながら鉍業権をもちつづけました。昭和 8 年に中島に鉍業権を売ったとき、3 万円くらいだったでしょう。

川田は佐伯の商人で、野村さんは川田といっしょに来た支配人みたいな人です。川田

は亜ヒ酸の事業をやる企業家でしたが、自分の資本じゃなく、神戸の山口商会の協力を得て、品物をどこそこに送るというように請けてやっていました。山口商会は農薬会社で、山口商会の主人が佐伯の出身だったので、「お前やってみるか」と、川田に言ったのではないですか。

日本鉱業名鑑（大正 2 年）より

宮崎県

子爵 内藤政舉 東臼杵郡岡富村甲 255 番地

鉱業所 同郡北方村 453 番地

事務長 笠原鷲太郎

（以下、略）

49-2 佐藤利喜治さんについて

墓碑

佐藤喜右衛門

父 俗名 力治 （*戸籍では利喜治）

行年 72 才

大正 9 年 5 月 2 日

（*数え年とすると、生まれた年は 1849 年つまり嘉永 2 年になる）

和合会と利喜治

和合会盟約条例（明治 23 年 9 月 13 日）の盟約公衆連名 35 人の中に「佐藤利喜次」の名前がある。道元越は、畑中にふくまれていた。

外録組合改良規約会の中にも、畑中の組員として「佐藤利木治」の名前がある。

佐藤繁熊さんの話（聴取日不詳）

利喜治さんは、よく、舞良戸なんかあると、寝て、足を天井にあげて、さかしになって休んでおるのを、子供心に記憶があるんですが。腸が下がって、気持ちがいいんでしょう。胃かなんか悪かったんじゃないか、と考えるんですけどね。

佐藤義雄さんの話（1979 年 4 月 21 日聴取）

体の大きいよく働くじいさんやった。鉱山の横に家をつくるだけの土地を買って家を建てたもんです。その上の段は、昔の女郎家敷という平がある。そこで、鉱山がやまったあと、付近の人が作をやりよった。トーキビ、大豆、小豆を植えたりして。

佐藤イセノさんの話（斎藤録音テープ B-7 より）

あんどき（利喜治さんが死ぬ前）、かな山のじいさん（利喜治のこと）が「亜ヒ鉾山（やま）がくるげな。銭とりが始まるが、いいあんばいじゃが、話にや、毒のあるもんげなち、死ぬるときに話しよらしたき。

49-3 宮城正一氏について（46-5と同じ内容です）

亜ヒ酸公害に関する佐伯市史の記述（P699より）

六 市民生活と公害

①古新聞の記事から

▽最初は亜硫酸の煙害

今から50年ほど前、大正8年（1919）7月27日発行の郷土紙「佐伯新聞」に、次のような記事が載っている。

亜硫酸工場の煙毒問題再燃

—70名連署で移転請願—

大正5年10月頃宮城正一氏の経営にかかる灘鳥越の亜硫酸工場の為め、翌年4月頃苦木に移転したることは当時本紙に報道せる所なるが、其後別に苦情も起らずして今日に至れり。

然るに大正6年末より亜硫酸の好況に伴ひ工場の数漸次増加し来り、現在にては金子隆氏の経営せる鼻面の工場を始め、苦木には元警視總監安楽謙道（正しくは兼道）氏を社長とする日本亜硫酸、臼杵町岩井峯吉氏の九州亜硫酸及び宇佐町安藤トメ氏所有の4工場建設され、日夜製造を休止せざるより、最近に至り煙毒問題再燃し、移転説を唱ふるもの頻出するに至れるが、苦木工場の煙害は附近の山林のみならず、鼻面の工場は東風隠れ、蛤窪の外女島の二町割・中洲・南中洲・鼻面向ふ・南川地方の農作物に影響を及ぼす事激甚なりとて、関係者約70名は近く連署を以て、本県知事に移転令達を請願せんと協議中の由なり。

この亜硫酸工場は大正4年4月、宮城氏の経営で工場を苦木に建設したが、鉾石輸送に不便であるとして、同年8月鳥越（注茶屋が鼻橋の左向う）に移転操業をはじめた。ところが農作物に被害が出て、工場立退きを迫られ、小田部町長が仲に立って調停に当たったが、意見の一致を見なかった。たまたま欧州大戦勃発の影響で、亜硫酸工業は活況を呈して、会社としても工場の拡張に迫られたので、製薬工場を再び元の苦木に移し、そして農作物の被害補償として金百円を農民に支払って、一応解決していたが（以上同紙大正6年4月29日の記事による）それが更に2年後問題化したわけである。

佐伯の鮫島ヤエさんの話（1976年聴取）

（宮城さんは）鉾山師やったんですがね。九州の亜ヒ酸の元祖ですよ。この人が亜ヒ

酸を始めた人。佐伯の人じゃない。四国の人やったんです。大正の初めごろ、佐伯に長くおった。鉱山を見つけて回りよった。いつごろやったか、延岡の息子さんのところで亡くなった。

佐伯の吉田栄治さんの話（1976年聴取）

奥さんが来てなかった。鹿児島か日向の人でしょう。この人のあと、鮫島という人が鹿児島から来た。宮城さんは指導に来たのか。そんなに長いことおらざった。

宮城が来るまで、亜ヒ酸の話はなかった。何の製造かわからなかった。亜ヒ酸がどういうものか知らざったわけです。

49-4 佐藤年保さんについて

高千穂町史の「高千穂地方鉱山開発史年表」（P583）より

1911 明治 44 岩戸村立宿佐藤善衛、佐藤年安、岩戸に小芹^{ママ}鉱山を開発し、大阪高橋安次郎に売渡す

福岡鉱務署管内鉱区一覧（大正2年7月1日現在）

試掘鉱区

試登 237 2年3月 岩戸、七折 マンガン 364,373 坪 佐藤年保

西臼杵郡岩戸村岩戸 172

福岡鉱務署管内鉱区一覧（大正3年7月1日現在）

試掘鉱区

試登 261 2年8月 岩戸村 金銀鉛錫重石亜鉛 315,500 坪 佐藤年保外 1

西臼杵郡岩戸村岩戸 3391

福岡鉱務署管内鉱区一覧（大正4年7月1日現在）

試掘鉱区

試登 262 2年8月 岩戸村 金銀鉛錫亜鉛重石 315,500 坪 佐藤年保外 1

西臼杵郡岩戸村岩戸 3391

福岡鉱務署管内鉱区一覧（大正5年7月1日現在）

試掘鉱区

試登 348 5年1月 岩戸村 銀銅錫亜鉛重石 333,000 坪 佐藤年保外 1

西臼杵郡岩戸村岩戸 3391

福岡鉱務署管内鉱区一覧（大正6年7月1日現在）

試掘鉱区

試登 348 5年1月 岩戸村 銀銅錫亜鉛重石 367,985 坪 佐藤年保外 1

西臼杵郡岩戸村岩戸 3391

福岡鉱務署管内鉱区一覧（大正 9 年 7 月 1 日現在）

試掘鉱区

試登 858 8 年 3 月 東海村 金銀銅鉛砒 526,002 坪 佐藤年保 外 2

西臼杵郡岩戸村岩戸 3391 ノ 2

福岡鉱務署管内鉱区一覧（大正 10 年 7 月 1 日現在）

試掘鉱区

試登 1010 9 年 9 月 門川村 金銀銅 236,500 坪 佐藤年保

西臼杵郡高千穂町三田井 1186

*翌 9 年 10 月、宮城正一が北川村に試登 1072 金銀銅鉛砒の試掘を登録している。

佐藤実雄さんの話（聴取日不明）

助^{つよし}さんの兄貴が年保というて、この人が鉱山ブローカーで、亜ヒ焼きを始めた 2 人を連れてきた。

年保さんの孫の嫁、佐藤ツルエさんの話（1980 年 3 月 19 日聴取）

死んで 10 年になる。公害の騒動が始まるちっと前。74 歳くらい？ 土呂久に戻ってくるときは、鉱山師を連れてくるとたい。どっか一緒に仕事をしよらした。だいたい頭の計算が桁違いじゃけ、わからんの。えらいな大きい話する。いちばん最初、ひと儲けさせたことがあったんと。えらいな錢握って、どこん山んこつか知らんけんどの。それが一番の始まりじゃげな。（略）ウランとかいう石をとっていた。「風呂にいれて入ると元気でる」とか言われた。死ぬまで鉱山を探して回った。

夕刊ポケット 1958 年 2 月 23 日

ウラン開発待った！ 下流に鉱害毒の恐れ 未を勘案、不許可か

祝子 昭和町佐藤保^{マサ}氏は祝子地先き 14,500 アールの金、銀、銅、ウラニウム、トリウムの試掘願いを県に出していたが、この試掘に対する地元の意見として市はきょう“同地は市の中心街から約 8 キロ、祝子川の流域であるため採掘を始めた場合、鉱山廃水で祝子川が汚染、工場用水、かんがい用水、漁業に対する影響が大きい”旨副申書を県に提出した。このためこの試掘願いは許可されない見通しが強くなった。

夕刊ポケット 1958 年 9 月 21 日

鹿川（北方）にウラン鉱 近く飛行機、ジープで立体調査

祝子地内のウラン鉱試掘願が今年の初め昭和町佐藤年保氏から市にだされて話題をまいたが、こんどは北方村鹿川一帯を同じくウラン鉱の有望地域として工業技術院が本格的な調査を始めることになり、県北のウランがいよいよ脚光を浴びるようになってきた。調査は同技術院地質調査所福岡駐在員事務所が来月末から来春にかけて行う

だんどり。

49-5 樋の口と和合会の役員

和合会議事録の役員から抜き書き

明治44年2月21日 幹事 佐藤年保

大正2年2月25日 幹事 佐藤年保

大正2年2月27日 (役員改選) 幹事 佐藤年保

大正8年2月24日 幹事 佐藤年保

大正11年2月20日 幹事 佐藤助

大正14年2月 幹事 佐藤助

昭和3年2月15日 樋の口から役員はでていない

昭和6年3月12日 会長 佐藤助

昭和8年5月25日 会長 佐藤助

昭和11年旧正月24日 副長 佐藤助

昭和13年2月20日 会長 佐藤助

昭和16年2月19日 会長 佐藤助

昭和19年2月25日 幹事 佐藤助

昭和22年2月14日 副会長 佐藤助

昭和25年3月12日 会長 佐藤助

(昭和27年8月22日 佐藤助事故死)